



## 2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年8月4日

上場会社名 タキロンシーアイ株式会社  
コード番号 4215 URL <https://www.takiron-ci.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 齋藤 一也

問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部長 (氏名) 近藤 修司

TEL 03-6711-3714

四半期報告書提出予定日 2022年8月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	35,312	1.5	1,445	51.3	1,570	49.1	768	64.5
2022年3月期第1四半期	35,852	12.9	2,966	61.9	3,084	61.3	2,165	84.3

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 1,658百万円 (24.5%) 2022年3月期第1四半期 2,195百万円 (54.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	7.90	
2022年3月期第1四半期	22.24	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第1四半期	149,344	92,061	60.4	928.03
2022年3月期	147,061	92,055	61.4	928.28

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 90,218百万円 2022年3月期 90,243百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		11.00		16.00	27.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)		11.00		11.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	150,000	5.7	8,200	5.2	8,400	7.5	5,400	18.9	55.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	97,500,000 株	2022年3月期	97,500,000 株
期末自己株式数	2023年3月期1Q	284,271 株	2022年3月期	284,271 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	97,215,729 株	2022年3月期1Q	97,369,654 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	P. 2
(1) 経営成績に関する説明 .....	P. 2
(2) 財政状態に関する説明 .....	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	P. 3
2. 四半期連結財務諸表 .....	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	P. 6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	P. 8
(継続企業の前提に関する注記) .....	P. 8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	P. 8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	P. 8
(会計方針の変更) .....	P. 8
(セグメント情報等) .....	P. 9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、持ち直しの動きが続いております。先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待されますが、ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動の抑制の影響などが懸念される中で、原材料価格の上昇や供給面での制約に加え、金融資本市場の変動等による下振れリスクに十分注意する必要があると考えます。

このような環境のもと、中期経営計画「変革への決意 Commit to Transformation 2023 (CX2023)」の2年目として、「1. 社会課題の解決、2. 新事業・新製品・新技術の獲得、3. ボードレスの加速、4. デジタルの実装、5. グループ経営の再整備、6. 経営基盤の進化」の6つの重点実施項目を設定し計画達成に向け事業活動を行ってまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高は35,312百万円（前年同期比1.5%減）、営業利益は1,445百万円（前年同期比51.3%減）、経常利益は1,570百万円（前年同期比49.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は768百万円（前年同期比64.5%減）となりました。

次に、事業セグメント別の概況をご報告します。

#### 建築資材事業セグメント

住設建材事業の住宅資材および管工機材部門は、製品値上げに伴う駆け込み需要が寄与し堅調に推移しました。一方、採光建材部門およびサイネージは、建設資材高騰の影響による非住宅物件の受注低迷や遅延、企業の広告宣伝費の削減等の影響により低調に推移し事業全体としては減収となりました。

床・建装事業は、床部門において、マンション改修物件への販売が堅調に推移し増収となりました。建装部門においては、国内市場でのコロナ禍影響からの回復に加え、海外市場の豪州、北米が好調を維持しましたが、主力である欧州の減速と中国、アジアの回復遅れが影響し、事業全体としては減収となりました。

その結果、建築資材事業セグメントの当第1四半期連結累計期間における売上高は11,223百万円（前年同期比6.0%減）、営業利益は582百万円（前年同期比43.9%減）となりました。

#### 環境資材事業セグメント

アグリ事業は、原材料価格高騰を反映した価格改定前の駆け込み需要が前期末から引き続き発生しており、不需要期ながら農業用資材全般が堅調に推移し増収となりました。

インフラマテリアル事業は、業界全体に新型コロナウイルスによる土木工事の発注数の減少および工事の中断などの影響があり、当社の受注案件についても大型工事物件の長期中断や工事計画自体の変更などの影響を受けました。また、前期は堅調を維持してきた管更生部門やハウエル管の販売が低調に転じたため、減収となりました。

その結果、環境資材事業セグメントの当第1四半期連結累計期間における売上高は12,506百万円（前年同期比2.8%減）、営業利益は18百万円（前年同期比94.2%減）となりました。

#### 高機能材事業セグメント

高機能材事業は、世界的な半導体需要の継続的拡大により、製造装置向けの工業用プレート、エンブラ材が伸長しました。また、電子回路基板向けのナノ材料も好調を持続し、眼鏡フレーム用アセテート板も海外ブランドからの引き合いが旺盛でした。一方、マイクロモータは上海ロックダウンにより2ヶ月間に亘る操業停止を余儀なくされた影響により低調に推移しました。

その結果、高機能材事業セグメントの当第1四半期連結累計期間における売上高は5,738百万円（前年同期比4.2%増）、営業利益は874百万円（前年同期比14.2%減）となりました。

#### 機能フィルム事業セグメント

ボンセット事業は、シュリンクフィルムが国内販売および欧州市場で堅調に推移し、北米においては原材料のタイトな状況から数量面では苦戦を強いられたものの価格転嫁と円安効果により増収となりました。

サンジップ事業は、ジッパーテープが国内販売は好調ながら、上海ロックダウンにより2ヶ月間に亘る操業停止を余儀なくされた影響により減収となりました。

その結果、機能フィルム事業セグメントの当第1四半期連結累計期間における売上高は5,703百万円（前年同期比4.8%増）、営業損失は8百万円（前年同四半期は685百万円の営業利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末より2,283百万円増加し、149,344百万円となりました。これは主に原材料及び貯蔵品、商品及び製品が増加したことによるものです。

一方、負債は、前連結会計年度末より2,277百万円増加し、57,282百万円となりました。これは主に賞与引当金が減少したものの、支払手形及び買掛金、電子記録債務が増加したことによるものです。

また、純資産は、前連結会計年度末より6百万円増加し、92,061百万円となりました。自己資本比率は、60.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想につきましては、2022年5月10日に公表いたしました連結業績予想から変更ありません。

## 2. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,790	7,987
受取手形、売掛金及び契約資産	35,534	34,069
電子記録債権	11,584	12,691
商品及び製品	14,056	14,767
仕掛品	3,237	3,659
原材料及び貯蔵品	6,591	7,733
預け金	14,008	13,734
その他	1,625	1,989
貸倒引当金	△23	△66
流動資産合計	94,403	96,567
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	14,870	14,993
機械装置及び運搬具（純額）	9,781	10,100
土地	12,914	12,925
建設仮勘定	1,243	1,159
その他（純額）	2,584	2,677
有形固定資産合計	41,394	41,856
無形固定資産		
投資その他の資産	2,485	2,479
投資有価証券	3,166	2,983
繰延税金資産	3,026	2,961
その他	2,586	2,499
貸倒引当金	△2	△2
投資その他の資産合計	8,777	8,440
固定資産合計	52,657	52,776
資産合計	147,061	149,344

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,789	27,417
電子記録債務	5,402	6,117
短期借入金	3,914	3,899
未払法人税等	983	479
賞与引当金	2,260	1,143
その他	6,377	7,672
流動負債合計	44,728	46,730
固定負債		
繰延税金負債	706	750
退職給付に係る負債	5,749	5,555
資産除去債務	158	158
製品保証引当金	394	762
その他	3,267	3,324
固定負債合計	10,277	10,552
負債合計	55,005	57,282
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,189	15,189
資本剰余金	30,981	30,981
利益剰余金	43,175	42,384
自己株式	△178	△178
株主資本合計	89,167	88,376
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	76	△59
繰延ヘッジ損益	△12	23
為替換算調整勘定	625	1,559
退職給付に係る調整累計額	387	319
その他の包括利益累計額合計	1,076	1,842
非支配株主持分	1,811	1,843
純資産合計	92,055	92,061
負債純資産合計	147,061	149,344

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	35,852	35,312
売上原価	25,003	25,784
売上総利益	10,848	9,528
販売費及び一般管理費	7,882	8,082
営業利益	2,966	1,445
営業外収益		
受取配当金	58	56
受取賃貸料	39	34
その他	88	89
営業外収益合計	186	181
営業外費用		
支払利息	11	8
賃貸収入原価	20	18
その他	35	29
営業外費用合計	67	56
経常利益	3,084	1,570
特別利益		
固定資産売却益	53	0
退職給付制度終了益	—	131
関係会社清算益	—	185
特別利益合計	53	317
特別損失		
固定資産処分損	5	25
製品保証引当金繰入額	—	391
新型コロナウイルス感染症による損失	—	138
特別損失合計	5	555
税金等調整前四半期純利益	3,132	1,332
法人税等	898	592
四半期純利益	2,233	740
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	68	△27
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,165	768



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	2,233	740
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△75	△135
繰延ヘッジ損益	△0	36
為替換算調整勘定	52	1,085
退職給付に係る調整額	△14	△68
その他の包括利益合計	△38	917
四半期包括利益	2,195	1,658
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,127	1,534
非支配株主に係る四半期包括利益	67	123

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結財 務諸表計上額 (注3)
	建築資材 事業	環境資材 事業	高機能材 事業	機能 フィルム 事業	計				
売上高									
(1)外部顧客への売上高	11,935	12,864	5,507	5,440	35,748	103	35,852	—	35,852
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	19	49	891	8	968	0	968	△968	—
計	11,955	12,913	6,398	5,448	36,716	104	36,820	△968	35,852
セグメント利益又は損失(△)	1,039	320	1,019	685	3,064	△14	3,049	△83	2,966

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、試験機の販売事業等を含みます。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用等でありま

す。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結財 務諸表計上額 (注3)
	建築資材 事業	環境資材 事業	高機能材 事業	機能 フィルム 事業	計				
売上高									
(1)外部顧客への売上高	11,223	12,506	5,738	5,703	35,172	139	35,312	—	35,312
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	41	49	857	7	956	0	956	△956	—
計	11,265	12,556	6,596	5,710	36,128	140	36,269	△956	35,312
セグメント利益又は損失(△)	582	18	874	△8	1,467	△68	1,399	46	1,445

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、試験機の販売事業等を含みます。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用等でありま

す。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。